

「松陰読本・手引き書」の特長
 「吉田松陰の生涯と業績」を
 刊行しました



本書の構成

一章 松陰の幼年時代	四章 海外渡航の失敗	七章 松下村塾
二章 御前講義	五章 野山獄	八章 なみだ松
三章 松陰の修業	六章 幽囚室	九章 松陰の最期

B5版 三二〇ページ・一〇〇〇円 購入の問い合わせは、公益財団法人 松風会 (〇八三(九二二) 一一一八)

「松陰読本の手引き書」をどのような編集形式で文章化していったか、事例によって述べてみたい。

二 吉田松陰の生誕地

松陰読本 P112
 杉家のあったところは、萩の東よりにある松本村の東光寺山南ふもと団子岩の丘にありました。

ここでは、松陰は団子岩にある小さな家で生まれたが、住居がここに決まるまでの経緯について説明しておきたい。

【資料】 杉家の住居の経緯 全集第十巻、「杉恬齋先生伝」P三六五

・杉七兵衛の生家は、萩市内の川島の荘(川島善福寺木前筋北詰・小橋筋東突当り)にあった。
 (別紙参考資料地図参照)
 ・文化十年(一八一三)百合之助十歳の三立野月に発生し、五六五戸を焼いた川島未曾有の大火により杉家も消失。七兵衛夫妻は、一時妻の実家の川上村立野に移住。
 ・その後、城東松本村に移って仮住居をしていたが、文政七年(一八二四)八月十八日、父杉七兵衛が病死したため、百合之助が二十一歳で家督を継いだ。
 ・丁度、その頃松本村の護国山西南麓の団子岩にあった「樹々亭」が売りに出されていた。この「樹々亭」は萩藩士八谷藤兵衛聰庵と号していた俳人の茶亭山荘で、これを杉百合之助の妻になる瀧の実父・村田右中が瀧の持参財産として手に入れ、贈ったものであるといわれている。

また、この小さな家には「樹々亭」という名前が付いているので、その経緯についても述べておきたい。

資料の原文の旧字体は新字体に改めたが、氏名や書籍名は旧字体のままにした。

読み誤りやすい人名・地名には原則ルビを付けた。

杉家の住居がわかりやすいように地図を掲載。

松陰読本とは
 郷土の偉人吉田松陰の生涯とその業績を後世に伝え、現在に生かすように明倫小学校の『松陰読本』を原型にして昭和五十五年に萩市が編纂し直した。

松陰読本の指導について

教科の場合、指導書というものがあるが、『松陰読本』の場合はそのようなものではなく、指導する場合、「吉田松陰」に関する参考文献等を収集しなければならぬ。

しかし、資料が膨大なため『松陰読本』の内容に即した適切な資料を収集するのに大変な時間と労力を要する。

松陰読本・手引き書の構成

そこで、どここの場面でどんな資料があれば適切な指導が出来るかを考え、『松陰読本』の編集方針に準じ、第一章から第九章までに必要な資料を収集し、注釈や解説等を交え『松陰読本・手引き書』を作成することにした。